

事後内部評価シート

| | |
|--------------|---|
| 調査研究課題名 | 東アジア公共交通 IC カードイニシアティブに関する研究 |
| 担当者 | 総括主任研究官 河田守弘、主任研究官 助川康、前研究官 望月隆志 |
| 当初目標と目標達成度 | <p>本研究は、東アジア地域内の複数都市において共通に利用できる交通系 IC カードシステムに関する基盤技術を開発し、これにより同地域における円滑で活発な交流を推進することを目的に、「メモリ分割技術」という技術を用いて実験用の共通カードを試作し、実証実験でその評価を行ったものである。</p> <p>平成 15 年 11 月から平成 16 年 1 月までの実証実験の後、札幌市営地下鉄大通駅において公開デモンストレーションを実施し一定の評価を得たことで、当初の目標は達成された。</p> |
| 調査研究内容の妥当性 | <p>交通系 IC カードの共通化実現に向けた本研究を実施したことによって、東アジアにおける交通系共通 IC カードのあり方や、実用化する際の課題等について幅広く考察することができた。</p> |
| 調査研究の仕組みの妥当性 | <p>調査研究に際しては、各方面の知見を集めて取り組む必要があることから、行政機関、民間企業及び諸外国の専門家の協力を得て、有識者から成る「東アジア共通 IC カード研究会」及び「東アジア共通 IC カード専門家会合」を設け、十分に議論しながら研究を進めた。</p> |
| 成果と活用（予定） | <p>本調査研究に引き続きバリュー処理などの決済方式について今後も検討を行うと共に、東アジア地域における今後の中長期的な交通系 IC カードの共通化に向けての更なる検討における足掛かりとなることを期待する。</p> |
| その他 | |